

富田碎花がやつて来た。彼はロシアへ行く積りで、ハルビンまで行つて引きかへしたのだと言ふ。

寫眞師が来て寫眞をとる。

新居は親戚の家へ行く。新居は徳島へ歸る序いでに演説やりに来たのだ。

大谷光端が来た時も、此の支那料理屋へ来たと、青年會館の主事の福山は言つた。

何様ウエイトレスも四五人居てニギヤカだつた。

新吉は便所に學生が落した帶革を拾つてそれを水道で洗つた。

一人ではしやぎまはつた。

非常に體は疲れてゐた。

さて何か話さなければならぬ事も考へねばならぬのだつた。

其處を出て今度は富田碎花の案内で、日本料理屋へ行くのだと言ふ。

矢立を忘れて取りに歸ると脊の高い學生が居残つて、ウエイトレスと戯れてゐたので一緒に行く。